

平成24年度 学校評価総括表（徳島市内町小学校）

1 学校教育目標 人権を尊重し、生きる力をもった人間性豊かな児童の育成

2 学校経営ビジョン（めざす子ども像）

- (1) 健康でたくましく、感性豊かな子ども（心身ともに調和のとれた人間性豊かな心を身につける。）
- (2) 進んで勉強し、考え、表現できる子ども（みずから課題を見つけ、主体的に解決する。）
- (3) まわりの人を大切にする子ども（互いに認め合い、磨き合い、高め合う。）

3 本年度努力目標

- (1) 教職員の和と総意を基本とし、保護者・地域との連携を密にし、相互の信頼と協力のもと、地域に開かれた特色ある学校作りに努める。
- (2) 人権教育を教育活動の全領域で取り組み、すべての教職員の共通理解のもとに推進し、人権意識の高揚に努める。
- (3) 教育課程の趣旨に基づき、指導方法の工夫・改善を図り、学力向上と基礎基本の定着に努める。
- (4) 一人一人を生かす特別支援教育の推進と充実に努める。

4 本年度スローガン 「あいさつ」 「きまり」 「いのち」

5 総括表

領域	評価項目	自己評価			学校関係者評価		次年度への改善点等	
		評価の観点	具体的目標	評価及びその理由	学校関係者の意見	評価		
学校	重点目標の周知	スローガンの児童や保護者への周知	3つの内容が答えられる児童95%以上。保護者80%以上。	児童57.7%、保護者41.8%。スローガンの中身については児童に定着しているが、昨年度のものと同様、言葉としてはすぐに出てこないようだ。	C	項目の周知で考えるより、内容が定着しているのもっと良い評価でよいのではないか。	B	児童玄関、教室前等児童と常に目に入るところへの掲示と、PTA総会などでの保護者への説明がくり返し必要である。
	開かれた学校	情報発信 学校・保護者・地域の相互理解と連携の推進	週1回以上の学校だよりの発行やHPの更新。 「学級（学校）の様子や学習内容、学習進度などを、学校便りや学年便り、懇談などによってよく知ることができる」「学校は、保護者からの連絡や相談に応じてくれる」と思う保護者90%以上。 「学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている」と思う地域住民90%以上。	週1回の学校だよりの発行並びにHP更新はほぼ達成した。しかし、アンケート結果は、保護者90.2%と88.6%、地域住民82.6%と、目標にわずかに届かなかった。	B	自己評価は「B」だが、十分情報発信できているのでAだと考える。ホームページと学校便りがリンクするとさらに良くなる。	A	HPの閲覧状況が低い。学校だよりと違いカラー画像の良さがあることをPRする必要がある。できるだけ新しい情報提供に努める。
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	「先生はあなたのことをわかってくれている」と思う児童、「学校は、子ども一人一人を大切に、互いに認め合う学級・学校づくりに取り組んでいる」と思う保護者、両者ともに90%以上にする。	児童アンケート96.2%、保護者90.2%と具体的目標を達成。	A	十分できている。今後も継続して欲しい。	A	現状に満足することなく、さらに上を目指し向上していく必要がある。
	教職員の資質向上	授業力の向上 児童理解の推進	わかる授業を展開するため、全学級で授業研究会を行う。児童理解を深める研修を行い、「学校が楽しい」と思う児童を90%以上にする。	全学級で授業研究会を行い、アンケート結果も94.8%と目標は達成したが、まだまだ「分かる授業」が常に展開されているとは言えない。	B	児童理解を深められ、教師と児童の関係が大変素晴らしい。少人数の本校ならではのであり、十分達成できていると考える。	A	教職員の本分に係わる部分であり、低いレベルでの妥協は許されない。年間授業時数約1000時間全てで「分かる授業」を展開することを目標としたい。
	施設環境整備	安全で潤いのある学校環境の整備	施設設備が整備され、安全に配慮する。校庭、教室などにごみがなく、花壇に花のある学校にする。	雨漏り等の施設面は少しずつ改善されている。敷地内にゴミがなく常に花壇に花もあるが、6年生の朝の奉仕作業や栽培担当教員など一部の者の努力に負うところが大きい。	A	中庭の花壇の美しさや、毎朝の6年生児童による校門前やレンガ通りのボランティア清掃・あいさつ運動に感動している。大変素晴らしい。	A	落ちていたゴミを自分から拾い、一生懸命掃除をする児童の育成を目指す。また、学校のきまりを守ることの大切さを指導し、安全面からも徹底していく。
教育活動	学力向上	基礎基本の定着 家庭での学習習慣の定着	「勉強がわかる」児童を90%にする。「家でしっかり勉強する」児童を90%以上にする。全国学力学習状況調査で全国平均、徳島県ステップアップテストで徳島県平均を上回る。	児童アンケートは94.8%と88%。全国学力状況調査では全国平均を上回っている。しかし、この結果は学校の教育活動の成果だけではなく、家庭や地域の教育力が高いことにも起因している。	B	学校でのしっかりと学習が土台となつて、家庭や地域の学習活動が成り立っている。本校は学習面の開きが小さいのではないか。	A	勉強がよくわからないと回答する児童を0に近づけるとともに、課題となる活用力や応用力を育てるために、より一層、教材研究や児童理解に努める。
	心の教育	感謝の気持ち 粘り強さ	「友達を大切に、仲良くできている」「すぐにあきらめずに粘り強く取り組んでいる」と思う児童を90%以上にする。 「本校の子どもたちは、やさしく思いやりのある態度が見られる」と考える保護者を90%以上にする。	児童アンケートは96.6%と89.9%とほぼ達成したが、保護者アンケートは85%。子どもたちは、やや粘り強さに欠ける。また、感謝の気持ちが素直に表現できない子どもが少なからず存在する。	B	優しく思いやりがあり、友だちを大切にしている子どもたちに育っている。いじめ等の問題行動が起こったときには、今後も全教職員で迅速に解決に向けて取り組んで欲しい。	A	道徳教育や人権教育の更なる充実とともに、「あいさつ」「きまり」「いのち」の3つのスローガンを徹底することで、心が育つと考える。
	生徒指導	あいさつ	「自分からあいさつする」児童を90%以上にする。「進んであいさつをしている」と考える保護者を80%以上にする。	児童アンケートは91.4%だが、保護者アンケートは65.4%。26%もの開きがある。高学年になるほどあいさつができていない現状も見受けられる。	B	あいさつは基本的に家庭でのしつけで身につけるものである。家庭への啓発がさらに課題であろう。	B	来校者へのあいさつ、立哨の方など登下校中の知っている人へのあいさつができるようにする。
	健康・体力作り	早寝早起き朝ご飯 運動習慣の改善や定着化	「早寝早起き朝ご飯」の重要性を、学校からの便りなどを通じて啓発する。水泳検定、縄跳び検定、校内持久走、チャレンジランキング、綱引き大会などを通じて、運動習慣の定着を図る。新体力テストで県平均を上回る。	児童は様々な検定やチャレンジランなどに積極的に参加した。対外的な大会へも全て参加したが、参加者が限定されており、全体の底上げにはなかなか結びついていない。給食の好き嫌いもまだまだ多い。	B	「競う」という観点も取り入れながら、体力づくりに取り組むと、さらに成果が上がるのではないか。	B	26年度、健康教育の研究指定を受けていることもあり、食育や体力づくりの研究に積極的に取り組んでいく。

5 総合評価

- ① 児童アンケート、保護者アンケートとも大変高い評価をいただいております。ただ、現状に満足することなく、さらに上を目指して研鑽に努め、互いに切磋琢磨する教職員集団であろうとすることが、我々に求められていることである。
- ② 今年度から「あいさつ」「きまり」「いのち」の徹底にスローガンが代わり、子どもたちもその内容が身に付いてきている。ただ、昨年度のスローガンと同様、言葉としては十分に浸透していない。
- ③ 学校関係者評価では大変高い評価をいただいた。家庭がすべきしつけの内容に関わるあいさつ等については、さらに啓発を図りながら成果の向上に努めたい。